

えさし



贈呈したのはがきの説明をする保坂庸夫さん（右）

江刺とゆかりが深い宮沢賢治が、生前に親友である保坂嘉内に宛てたはがきの贈呈式が6月1日、江刺生涯学習センターで行われ、嘉内の次男・庸夫さん（82歳）＝山梨県韮崎市＝からはがきが投函された江刺・伊手・米里・水沢区羽田の各郵便局にそれぞれ贈られました。

保坂さんは、賢治が嘉内に宛てた手紙73通を保管しており、今回贈呈されたのはその一部の複製。4通の手紙は1917年8月28日から9月3日の間に出されたもので、それぞれに賢治の人柄がよく表れています。今回贈呈されたはがき（複製）の展示は、7月末まで江刺図書館で行っています。

貴重な賢治の手紙が里帰り
宮沢賢治の直筆はがきが贈呈

まちの話題



都市部の子どもたちが農家で農作業などを体験するグリーン・ツーリズムの受け入れがことしも始まり、本年度おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会に加盟した水沢区と江刺区でも、加盟後初の受け入れを行いました。水沢区では、5月12日から13日にかけて、仙台市立西多賀中学校（伊藤順子校長）の生徒105人が訪問。江刺区でも5月13日に東京都の啓明学園中学校（佐々信行校長）の生徒44人が農家を訪れました。

水沢グリーン・ツーリズム推進協議会会長の高橋典雄さん（66）＝水沢区字五千刈＝宅には、生徒4人が宿泊。キュウリの世話や苗運び、草もち作りなどを楽しみながら体験しました。農作業初体験となった堀米彩花さん（2年）は「キュウリの生育にこんなに手間暇がかかると思わなかった」と語り、農作業の大変さを肌で感じていました。

汗さわやかに農作業を体験

水沢区と江刺区で初の受け入れ



笑顔でキュウリのつる巻き作業を行う西多賀中学校の生徒たち

みずさわ

威徳をしのび五穀豊穰願う

春の後藤寿庵大祈願祭



キリシタンだった寿庵をしのんだミサ

春の後藤寿庵大祈願祭（水沢カトリック教会主催）は5月31日、胆沢平野土地改良区で開かれ、信徒や福原地区の住民ら約150人が参加しました。参加者はミサなどを通じて寿庵の功績をたたえ、農作業の安全や五穀豊穰を祈りました。

寿庵は江戸時代初めに水沢区の福原地区を治めていたキリシタン領主。水不足で苦しんでいた領民のために寿庵堰と呼ばれる堰を造り、現在の豊かな穀倉地帯の礎を築きました。寿庵祭は毎年この時期に行われているもので、9月には作物の実りに感謝し、寿庵の徳をたたえる感謝祭が地区住民の手で行われる予定です。

内田ため池に早乙女隊登場

内田ため池で田植え作業

「田んぼの学校」田植えイベントが5月31日、胆沢区若柳の西風集落にある内田ため池の水田（合計面積約22㍍）で行われ、地域住民や関係者、岩手大学の学生（留学生4人含む）など総勢120人が、モチ米の田植え作業などに汗を流しました。

作業は地域に古くから伝わる神事を経てスタート。女子留学生2人も「早乙女隊」のもんぺ姿を装って田植えに挑戦するなど、行事を通じて日本文化を肌で感じていました。参加者は今後秋の稲刈りまでの間に、草刈りや生態観察など水田を数回訪問し、稲の生育を見守る予定です。



楽しそつに作業をする「早乙女隊」

いさわ

ころもがわ

安倍氏とのかかわりを学ぶ

冊子「安倍氏と衣川」が完成



希望者は同振興会に0980017667

衣里地区振興会（伊藤敏男会長）は、平泉文化の礎を築いた安倍氏について理解を深める冊子「安倍氏と衣川」をこのたび完成し、衣里地区約500世帯をはじめ、市内の小中学校などに配布しました。

この冊子はことし3月に同振興会が開催した歴史シンポジウム「日本史の中の安倍氏・衣川」の一環として、住民に地元の歴史を理解してもらうことを目的に製作。掲載した内容は、平成元年に開催した「安倍氏シンポジウム」報告書などを参考に、「藤原清衡の母は安倍氏である」ことなど、衣川に伝わる興味深い伝承をまとめています（残部は1部200円で頒布）。

新たな文人の誕生を目指し

第1回三好京三随筆賞

NPO法人三好京三顕彰会（三浦辰郎会長）が実施する第1回三好京三随筆賞の表彰式が5月24日、前沢ふれあいセンターで行われ、最高賞の三好京三賞に輝いた佐々木みゆきさん（水沢区）をはじめ、12人に表彰状や記念品などが手渡されました。

この随筆賞は、前沢出身の直木賞作家・三好京三さんをしのび、その功績や人柄を末永く顕彰していくことを目的に、ことし1月から3月までの間で作品を募集していたもの。おとなの部108編、子どもの部38編の応募があり、子どもの部の最高賞・三好京三ジュニア賞は高橋義貴君（胆沢愛宕小5年）が受賞しました。



三浦会長から表彰を受ける佐々木さん

まえさわ